

# 河が育む農縁

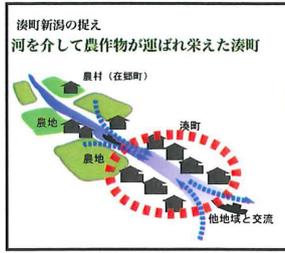
河を介して農作物が運ばれ、人々の豊かな営みと交流があった  
河を介して農で繋がっていた、その繋がりをもう一度考え直す

～「農」を活かした都市と農村の共発型まちづくり～

## 1. 新潟市の捉え

『河を介して農作物が運ばれ栄えた湊町』

かつて新潟は、信濃川沿いの豊かな水を利用した農業が発展し、川沿いの農業地帯で作られた米を中心とした農作物が舟運によって河口部分に集められ、市内は湊町として発展してきた。新潟市は、信濃川という軸上の様々な繋がり（湊町と農村の繋がり、他地域との繋がり、水運による交通の繋がり、人々の繋がり等）を通して形成されていった。



## ■計画概要

地域ごとの特徴やそのポテンシャルから、萬代橋を中心に4つのおおまかなゾーニングに分け、それぞれの地域に以下の将来像を描く。

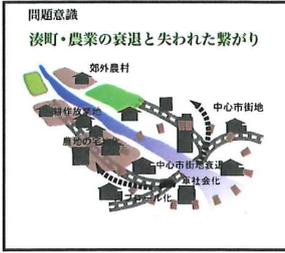
- ①都市と農村を繋ぐ縁（信濃川での水運によってつながる）
- ②ひととひとを繋ぐ縁（農を介して様々な人のつながりを作り出す）
- ③新潟と他都市を繋ぐ縁（新潟と他都市が農を介してつながる）
- ④来訪者と新潟を繋ぐ縁（新潟を訪れるひとが農によって新潟とつながる）

この各地域でのまちづくりビジョンとそれらをつなげる新たな交通体系によって、都市と農が相互依存関係を新たに構築し、持続可能な共発型まちづくりへとつながっていく。

## 2. 問題意識

『湊町・農業の衰退と失われた繋がり』

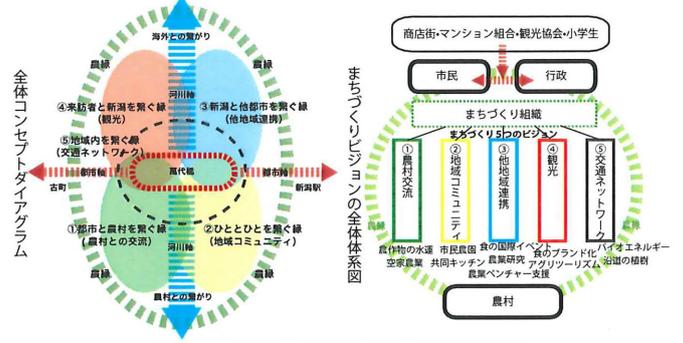
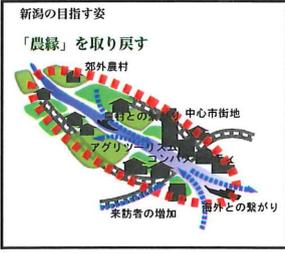
近代化の過程において、輸送の中心は車に代わり、まちは河から完全に乖離する事になってしまった。また、農家の高齢化により、後継者不足や廃業等の問題が起こり、土地が宅地として売り払われ、そこに住宅が建てられる。それと同時に郊外部への道路整備と車社会化が進行し、市街地がスプロール化していった。近代化の過程においてかつての湊町が持っていた繋がりは失われ、市街地と農業の衰退は相関関係を持った上で同時進行してきている。



## 3. 新潟の目指す姿

『農縁を取り戻す』

かつての新潟には、湊町と農村の繋がり・他地域との繋がり・地域内の人々の繋がり・信濃川や堀を利用した水運の繋がり等様々な繋がりがあった。新潟において、それらの繋がりの根源は『農』にあり、信濃川などの河により醸成されてきた。かつての新潟にあった農を介しての豊かな『縁』を取り戻し、またこれからの社会に向けて新たな『縁』を構築していくことにより、魅力あるコンパクトな市街地の創造のみならず、市街地周辺に広がり信濃川により繋がる農村の活性化を目指す。

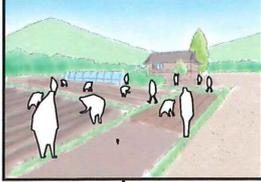


	phase1	phase2	phase3
農村交流	室内での栽培 農業指導、体験 農のフェスティバル	農産物の直売所を設置 通商農業、農業見学	産物の再生 農産物が町に付き渡る
地域コミュニティ	小規模農園の利用 農業系テナント誘致 アグリパーク	アグリタウン新潟整備 農を介したイベント 農の街	農を通じた体験、学習 老後の生きがい 産物の再生
他地域連携	食の国際日本市開催 スローフードの活動	農業従事者の教育 農業交流エリア アグリパーク	実践農場、バイオマスプラント 海外研究機関の誘致 バイオ事業
観光	農村観光ツアー 農と都市を繋ぎ通す	産地直送のブランド化 新潟ブランドの定着 農縁	産物の再生、マルシェ 他地域との連携
交通体系	カーシェアリング レンタサイクル	バスレーン整備 都市軸の長距離整備	産物での舟運 バイオエネルギー利用

■歴史散策路マルシェ



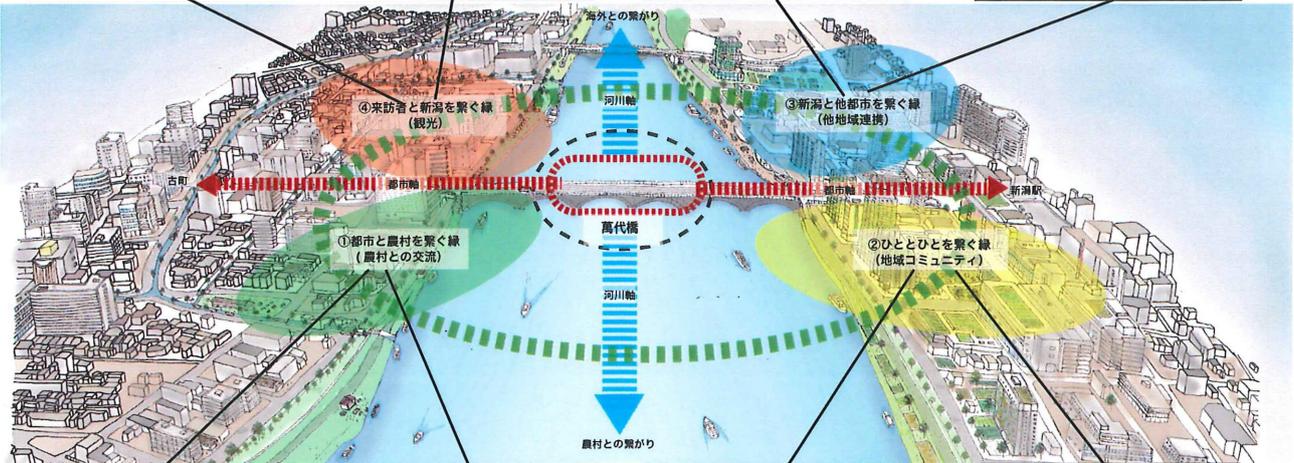
■農村体験ツアー



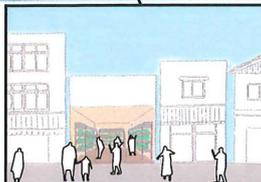
■バイオファーム



■食の国際イベント



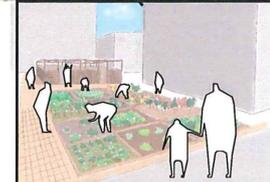
■信濃川沿いの営みの復活



■農ハウス



■緑地帯整備



■共同菜園